



# 強み

## 「3つの強み」が生み出す社会価値

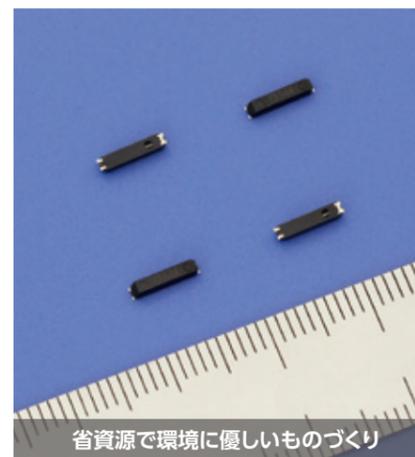
時計製造で培われた

### Technology

「匠・小・省」の精神が生んだ技術力が、さらなるイノベーションを創出



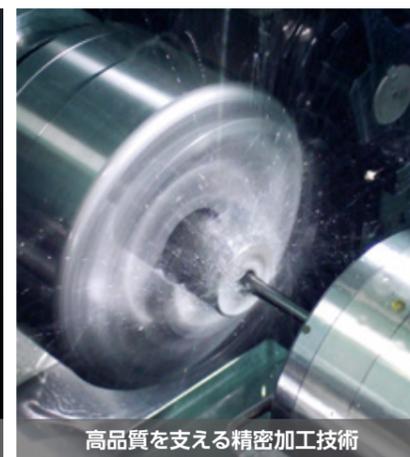
超精密組立技術



省資源で環境に優しいものづくり



革新を実現する匠の技



高品質を支える精密加工技術

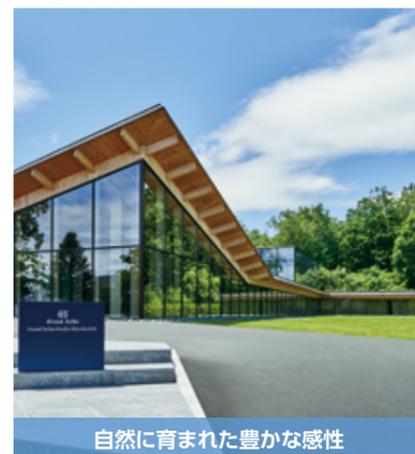
世界に評価される信頼の

### Brand

高品質の商品・サービスを提供し続けることで獲得した比類のないブランド力



追い求め続ける“時の本質”



自然に育まれた豊かな感性



社会から認められた確かな品質



関東大震災で焼失した修理預かりの懐中時計

長い歴史の中で築き上げた信頼

ものづくりからコトづくりまで幅広い

### Solution

徹底したお客さま視点でのトータルソリューションのご提案



ニューノーマルに対応したオンラインコンシェルジュ



Photo/MASATO MITSUNARI

贈り手の心も伝えるおもてなし



Society5.0の実現に貢献するソリューション提案力



Photo by aflosport

一瞬の感動を逃さないトータルソリューション

# グローバル展開 (2021年9月30日現在。なおエリア別売上高比率は2021年3月期)

世界に愛され、  
人々とともにあるグローバルブランド

**Japan**  
エリア別売上高比率: **56%**  
グループ会社数: **28**社



**Europe / Africa**  
エリア別売上高比率: **9%**  
グループ会社数: **6**社



**North / Central / South America**  
エリア別売上高比率: **8%**  
グループ会社数: **5**社



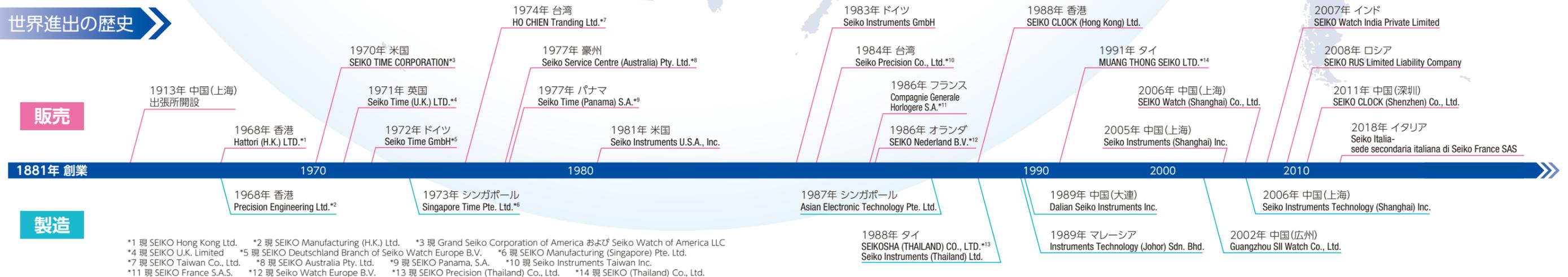
**Asia / Oceania / Middle-East**  
エリア別売上高比率: **27%**  
グループ会社数: **22**社



## 世界進出の歴史

販売

製造



\*1 現 SEIKO Hong Kong Ltd. \*2 現 SEIKO Manufacturing (H.K.) Ltd. \*3 現 Grand Seiko Corporation of America および Seiko Watch of America LLC  
\*4 現 SEIKO U.K. Limited \*5 現 SEIKO Deutschland Branch of Seiko Watch Europe B.V. \*6 現 SEIKO Manufacturing (Singapore) Pte. Ltd.  
\*7 現 SEIKO Taiwan Co., Ltd. \*8 現 SEIKO Australia Pty. Ltd. \*9 現 SEIKO Panama, S.A. \*10 現 Seiko Instruments Taiwan Inc.  
\*11 現 SEIKO France S.A.S. \*12 現 Seiko Watch Europe B.V. \*13 現 SEIKO Precision (Thailand) Co., Ltd. \*14 現 SEIKO (Thailand) Co., Ltd.

## CEOメッセージ



セイコーホールディングス株式会社  
代表取締役会長  
兼 グループCEO 兼 グループCCO

**服部 真二**

### 140年にわたって「受け継がれてきた理念」と「未来への志」に基づき、グローバルな社会課題の解決を目指します

セイコーホールディングスグループは今年で創業140周年を迎えました。

創業者服部金太郎が銀座で時計の販売と修理から始めた事業は、社会の様々な要請に応えながら、現在のグループの各事業へと発展してまいりました。最初の50年は、誕生と消失、そして再生の時期にあたります。創業から築き上げてきた事業のほとんどを、関東大震災という未曾有の災害が奪っていきました。しかし、我々は歩みを止めませんでした。お客さまから修理でお預かりした時計は同等の新品で返却、従業員の早期再雇用等も断行し、我々が再度立ち上がった象徴として、今なお銀座で皆さまに愛される和光本館を竣工しました。まさに当社がステーキホルダーから絶大なる信用を得るに至った50年と位置づけることができます。

次の50年は、世界への挑戦と飛躍の時期にあたります。世界大戦の焼け跡から立ち上がり、世界初の電子計時システムを導入し東京・札幌という二つのオリンピック計時を成功させました。そして、クォーツ革命を起こし、グローバル市場でセイコーブランドの精密・正確・信用という評判を勝ち得て、時計以外の多角化にも舵を切った50年と言えると思います。

そして現在に続くこの40年間は、プラザ合意による急激な為替変動を皮切りに、バブル崩壊、金融危機、リーマンショックなどを経て、企業は大量生産による持続的成長が難しくなり、さらに多発する異常気象と自然災害、パンデミックと地球規模の社会課題に世界が協力する時代へと変わりました。想定外のことが次々と起こる激動の時代を迎えた今、グループ社員一人ひとりに必要なのは何のためにセイコーは存在するのかということをお問自答することでした。改めてグループ社員全員で存在意義について考え直し、140周年という機会に当社グループの原点ともなるパーパスをつくりました。

それは、

**革新へのあくなき挑戦で、  
人々と社会に信頼と感動をもたらし、  
世界中が笑顔であふれる未来を創ります。**

というものです。

当社グループ140年の歴史は、常に社会に役立つための、そしてより良き未来を実現するための革新と挑戦の連続だったと言えます。そして、これからは激動する時代の中、人々が安心して暮らし、快適で心地よい時間を過ごせる未来を創り上げるために、ステーキホルダーの皆さまからいただいた唯一無二の資産である「信頼」を裏切ることのないよう、困難な期待にも新たな「価値創造」でお応えしてまいりたいと思います。

SDGsの目標として掲げているとおり、全世界が社会的課題の解決に立ち向かわねばならない昨今、私たちは調達先、協力工場、お取引先の皆さまや、従業員と一緒に、品質を徹底的に磨き上げ、革新的な新製品や新サービスを世界に提供していかなければなりません。そのために当社グループは、「受け継がれてきた理念」と「未来への志」を込めたパーパスを道標に、ステーキホルダーの皆さまとの共感をさらに強化しながらさらに前へ進んでいく必要があります。笑顔であふれる未来のために、常に不可欠で期待される存在としてこれまで以上の信頼を獲得できるよう邁進してまいります。

コロナ禍を契機に人々の意識は激変しました。人と人とのつながりがいかに大事であるかを知りました。当たり前の日常が奪われ、新しい生活様式を創造していくことを余儀なくされたことで、サステナブルな社

会を実現することの重要性に気づかされました。次の世代に地球環境を引き継いでいくために、私たちは社会課題の解決に真摯に向き合わなければなりません。

そこでステークホルダーの皆さまから、当社グループに期待することやご意見などを収集し、持続可能な社会に向けた13のマテリアリティを選定したうえで、全社を挙げた取組みを開始しました。当社グループの強みを活かし、長く使える製品の開発やサイズの小型化などに加え、アフターサービスの充実や中古市場の展開サポートなどにより「循環型社会の実現」を目指します。品質管理を一層高めた「社会に信頼される高品質な製品・サービスの提供」はもちろんのこと、人と寄り添うことを重視してきた当社グループならではの「安心・安全でインクルーシブな社会インフラ構築への貢献」など、事業活動を通して解決できるものから取組みを進めてまいります。

すべての従業員による「気候変動・脱炭素への取組み」や、「働きがいの実現と多様な人材の活躍」などもとても重要性が高いと考えています。その他、当社グループならではの「文化・スポーツ支援を通じた豊か

な社会への貢献」など、13の項目を特に重要な課題として捉えました。パーパスを原点に、世界中の人に笑顔になっていただくために、マテリアリティに対して何ができるか全社員で考える活動を進めています。

さらに、この140周年から10年後にあたる150周年という大きな節目に向けて、全社一丸となって進むための目標となるグループ10年ビジョンも策定しました。

**アナログとデジタルのシナジーにより  
世界中の人・モノ・時をつなぐ  
製品・サービスを創造し、  
サステナブルな社会に貢献する  
ソリューションを提供する。**

これからの10年、技術の進歩のスピードはデジタルの力で加速され、機能的に大きな進歩を遂げることは間違いありません。しかし、それと同時に人や社会のニーズも一層多様化・複雑化していきだろろうと思われる。このような変化の中で当社グループは、強み

であるアナログとデジタルを組み合わせ、社会のサステナビリティのために技術やサービスを進歩させることで、人と社会の役に立つソリューションを提供していきたいと思えます。

人と人が強く結びつく、そしてすべての人が、モノを通して、情報や便利さという無形な価値に結びつくことができる社会が、これからのあるべき社会だと考えています。このようなインクルーシブな社会を目指してこれからの10年間を進んでまいります。

また、長い時を超えて思いをつなげられるモノを提供することは、省資源の実現に寄与します。気候変動や資源不足が懸念される社会で、大量生産・大量消費型経済は決して目指すべきものではありません。少しでも長く使い続けられるモノをお届けし、それらを修理等でさらに長く使えるようにしていくことで、「モノを大切にすることが価値がある」という社会づ

くりに貢献したいという思いも、このグループ10年ビジョンに込められています。

2021年度はコロナ禍の影響を受け、販売においても製造においても活動に制限のある環境でスタートし、まだまだ先行きは不透明です。そのような中でも当社グループは、ニューノーマルといわれる社会に適した製品・サービス、そして製造や販売の仕組みあるいは働き方を、DXを駆使することで新たに立ち上げていくことに注力しています。

次に何が起きるか全く想像がつかない環境下においても、ステークホルダーの皆さまとともに社会課題の解決を図りながら、世界中の人々の笑顔を目指して、150周年という節目に向け、勇気をもって進んでまいります。

引き続きご支援賜りますようよろしくお願いいたします。



**グループ  
10年ビジョン**      **アナログとデジタルのシナジーにより  
世界中の人・モノ・時をつなぐ製品・サービスを創造し、  
サステナブルな社会に貢献するソリューションを提供する。**

**アナログ×デジタル**

我々はルーツである時計事業を中心に幅広く技術力を高め、人と社会が求めるものを追求してきました。その中で培ってきた「アナログ技術」と「ヒューマンタッチな感性」、そして時代の進歩の原動力ともなる「デジタル技術」、これらのより高度な相乗効果を生み出すことで新しい技術的価値、感性的価値、社会的価値を創造します。

**人・モノ・時がつながる社会**

人やモノ、時をそれぞれつなげることで、人々が信頼や感動で結びつき身近に感じあえる「小さな世界」や長い間あるいは時を超えて思いが届く「Long Lifeな社会」を実現させ、世界の人々を笑顔にします。そして大量消費型から脱し、人とモノが大切にされるインクルーシブで持続的に発展する循環型社会の実現にも貢献していきます。

## 社長インタビュー

### SDGs、ビジネスモデルのトランスフォーメーション、人材の育成と活性化の3つの柱によって、グループ10年ビジョンの実現を目指します



セイコーホールディングス株式会社  
代表取締役社長  
高橋 修司

**Q.** 新社長としてこれからのグループ経営に向けたお考えを聞かせてください。

**A.** 私は、セイコーホールディングス(株)の社長に就任するまでセイコーウオッチ(株)の社長を4年間務めてきました。その間に強く感じたことは、これまで10年に一度起こるかどうかと言われていたような想定外の経済危機や自然災害、いわゆる“ブラックスワン”が、近年、頻繁に起こるようになってきているということです。私たちは、このような“ブラックスワン”やそれにより加速する外部環境の変化に柔軟に対応し、確実な成果を挙げていかなければなりません。これを可能にするのが、グループパーパスです。私たちは創業140周年の節目の今年、改めてパーパスを明文化しました。このグループパーパスを社員一人ひとりが自分のものにする事で、大きな危機や変化の時もグループが一つになってスピーディー

に、そして柔軟に対応していくことができます。

このような危機に強い経営体質を作るために、これまでの事業ごとにそれぞれの成長を目指すやり方ではなく、ホールディングスが求心力を発揮し、パーパスを原点に、さらなる顧客・社会志向、社員のやりがいの醸成、ステークホルダーの皆さまの理解促進を徹底したグループ一体経営、すなわち求心力経営に舵を切ります。

そして、先行きの不透明感が増しているVUCAの時代だからこそ、より長期的な視点を持ち、社会課題解決への貢献に取組み、社会とともに持続的な成長を目指すサステナビリティ経営を推進することで、グループの価値向上を実現していく決意です。

**Q.** 求心力を強化してどのような取組みを進めるのでしょうか。

**A.** グループの求心力経営を支える柱として次の3つの取組みを強化していきます。

一つはSDGsの取組みです。2021年、当社グループはパーパスをもとに13のマテリアリティを設定しました。多岐にわたる当社グループの事業それぞれがこのマテリアリティに対してキヤクアクションを定め、社会課題の解決に向けた取組みをスタートしました。そして、これらの取組みを推進していくうえで必要なサステナビリティ委員会も設置しました。

次にビジネスモデルのトランスフォーメーション、DXの強化です。2021年6月末にグループのDX推進をサポートする組織をホールディングスに設置し、取組みを強化しています。新型コロナウイルス感染症の拡大により、この1年半でリモートワークや業務のデジタル化が急速に進みましたが、さらに脱ハンコやペーパーレス化、定常的な業務の自動化などを進めるとともに、デジタルデータのさらなる有効活用に向けた仕組みの構築を進めています。また、ホールディングスとセイコーソリューションズ(株)が協働

し、事業会社の営業、マーケティングなど業務プロセスのDXを加速させていきます。

そして、もう一つの重要な柱はHuman resource=人材の育成と活性化です。私たちはパーパスを踏まえ、10年後の目指す姿としてグループ10年ビジョンを新たに策定しました。このグループ10年ビジョンには、パーパスにある「革新へのあくなき挑戦」を実現し続けるために必要な組織文化についての思いが込められています。新しいことへ挑戦するには、これからますます多様化する価値観に対して、それぞれの価値観を尊重し、尊敬しあう文化が必要です。そして挑戦が結果に結びつかなかったとしても、その失敗を失敗のままに終わらせるのではなく、成長の機会に転換できる、失敗を価値に変える組織にしていきたいです。このような企業文化があつてこそ、何事に対しても迅速に行動を起こせる人材、挑戦意識を持ち最後までやり遂げる責任感を持つ人材、すなわちこれからのサステナビリティに必要な人材が育つのだと確信しています。

**Q.** サステナビリティ経営の実現には他に何が必要でしょうか。

**A.** サステナビリティ経営実現の軸はパーパスです。私たちのパーパスにある「世界中が笑顔であふれる未来を創る」ために必要なこと、それは徹底的な顧客・社会志向です。お客さまの課題を解決するため私たちに何ができるのか、お客さまを笑顔にするために何を提供しなければならないのかということを常に考え、お客さまと真摯に向き合い続けていかなければなりません。グループのすべての事業がこの姿勢を徹底し、その実現のために「革新へのあくなき挑戦」を続けていきます。

サステナビリティ経営を推進するうえで、現在、当社グループには大きく分けると五つの課題があると、私は考えています。第一に、先ほどお話しした「求心力を効かせたグループ経営体制の強化」です。第二は「グループの事業ポートフォリオの最適化」です。当社グループはこれまで

事業の選択と集中を進めてきました。その結果がコロナ禍にあっても安定した収益の維持につながっています。今後は、事業ごとの提供価値を分析し、価値創造ストーリーがより明確になる事業ポートフォリオ戦略を推進します。第三は、収益力の強化です。変化や危機に強いグループになるためには一層の収益力強化が不可欠です。そして第四は、新たな成長戦略やインキュベーションです。6月末から新しい成長戦略の立案、実行に取組む専門の部署を設置し、新たな価値創出に向けた取組みの強化を図っています。時代の変化を取り込み、いつの時代も社会課題の解決に貢献できる企業でなければならないと考えます。そして最後に、先ほど触れました、これらのことを成し遂げるための、グループの成長を支える長期視点での人材育成です。

**Q.** 2021年度はこれまで取り組んできた第7次中期経営計画の最終年度となります。現在の中期経営計画の進捗をどう捉えていますか。

**A.** 第7次中期経営計画は2019年4月にスタートしましたが、初年度の第4四半期から新型コロナウイルス感染症が拡大し、外部環境は想定から大きく変わりました。特にBtoCビジネスへの影響は大きく、計画を下回る結果になりました。一方で、電子デバイス事業やシステムソリューション事業などは感染症拡大のマイナス影響を受けつつも、計画で掲げた基本方針に沿った戦略を推進し、好調な業績を達成しています。

ウォッチ事業は、特に国内ビジネスが感染症拡大の影響を大きく受け、市況が戻らず厳しい状況が続きました。一方、海外市場は感染症拡大の影響が落ち着いた2020年度の下期以降、順調に回復し、2021年度の第1四半期には主要な国と地域でコロナ禍前の前々年同期を超える売上となりました。この成長を実現したのが、計画の基本方針であるグローバルブランド (GB) 戦略です。中価格帯商品の市況感はグローバルで見ても回復は緩やかなものにとどまっていますが、高価格帯ウォッチ市場は米国や中国などを中心に回復が早く確実に需要が高まっており、当社のGBの中でも特にブランドセイコー (GS) は米国を中心に飛躍的な成長を遂げています。

電子デバイス事業は、医療やIoTなどの成長分野の製品の強化に取り組みました。その結果、医療用途向けの小型電池やモバイルプリンタ、水晶振動子などで売上が拡大するとともに収益性の改善も進んでいます。さらにリモートワークの普及などにより、データセンター向けハードディスク部品の需要が伸びたほか、半導体市況の活況で半導体製造装置向けの高機能金属部品なども順調に推移しています。システムソリューション事業でも外食産業向けのビジネスなどで感染症拡大の影響を受けましたが、5G向けのネットワーク関連ビジネスやIoTビジネスが伸びています。加えて、DX化の加速による電子スタンプ、電子署名、電子契約などのビジネスも需要が高まっています。第7次中期経営計画の基本方針でもあるストックビジネス化の成果により収益面でも一層の改善が進みました。

ウォッチ事業や和光事業などの国内ビジネスは、残念ながらコロナ禍の拡大により計画目標に届かない見込みとなっていますが、ウォッチ事業の海外ビジネスは計画に沿って順調に進展しています。電子デバイス事業やシステムソリューション事業でも中期経営計画の戦略を推進し、着実に成果を上げています。

**Q.** 第8次中期経営計画を見据え、中長期的戦略の方向性を教えてください。

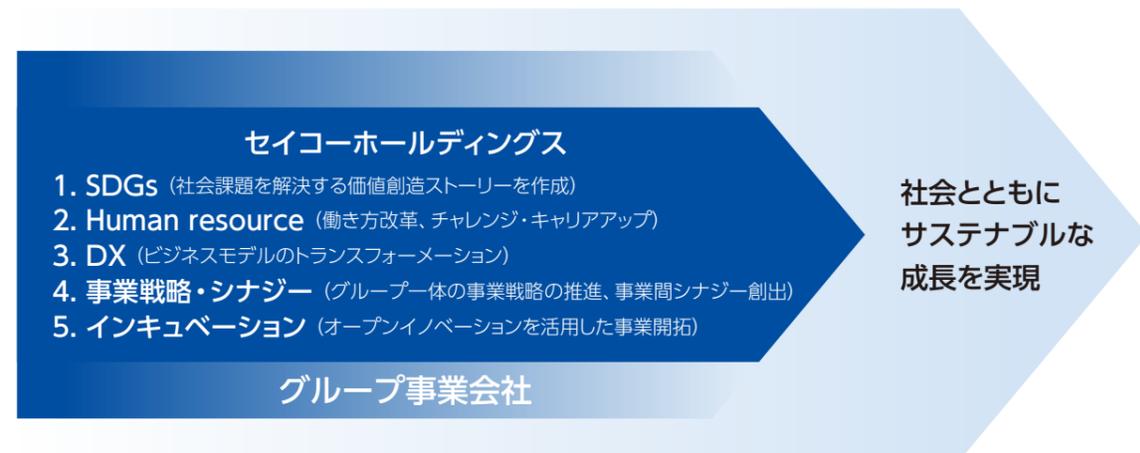
**A.** 先ほど述べたように、私たちは明文化されたパーパスを原点に、グループ10年ビジョンを作成しました。次期中期経営計画はこの10年ビジョンからバックキャストで策定いたします。10年後の私たちのあるべき姿を実現するために、ブレないターゲットを定めると同時に、外部環境の変化や“ブラックスワン”に対して柔軟に迅速に対応できる仕組みを構築し、目標達成を目指していきます。

さらに、従来から時を通じて取り組んできた自己実現や、人間らしいエモーショナルな価値を創出するビジネス開発をますます深化させるとともに、来たるべきSociety5.0の社会に貢献する技術、サービスの探索を加速していきます。そして、これまで取組んできた選択と集中とは異なる、事業が創出する価値を重視した事業ポートフォリオの再構築を検討し、事業の価値創造ストーリーをより明確にしていきます。

**Q.** 最後にステークホルダーの方々へのメッセージをお願いします。

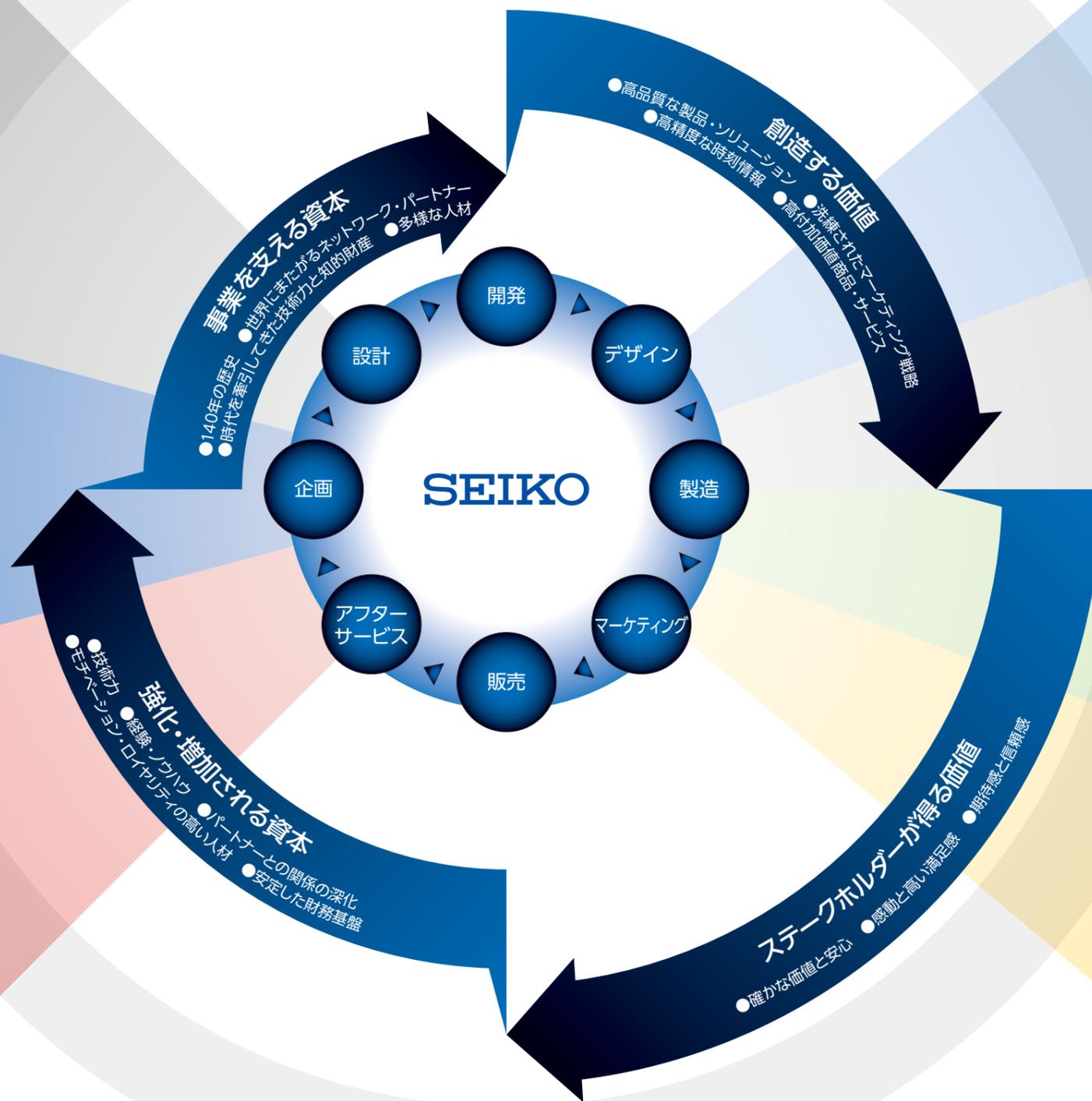
**A.** この1年半、私たちは新型コロナウイルス感染症と対峙してきました。その中で最も優先してきたのは、従業員やステークホルダーの皆さまの感染防止対策と安全の確保です。社内では危機対策本部を設置し、国内外すべての事業会社のコロナ対策、従業員の罹患状況、事業活動の状況を把握するとともに、リモートワークの導入、ペーパーレス化のための業務プロセス見直しなどの対応を進めてきました。また、サプライチェーンやお客さまの状況に寄り添った事業活動継続にも努め、自社だけでなくステークホルダーの皆さまとともにこの変化への対応に取り組んできました。このコロナ禍でもたらされた変化はこれからも続いていくことでしょう。私たちは、この変化を「世界中が笑顔であふれる未来」につながる変化にするために、ステークホルダー

の皆さまとの対話をさらに深め、多様化する価値観に寄り添い新しいソリューションを提案し続けます。創業140周年を迎えたセイコーホールディングスグループは、さらに150年、そしてその先の未来に向けて、皆さまとともに持続的な社会の実現に向けた社会課題の解決に貢献し、「笑顔であふれる未来」に向けグループ一丸となって「革新へのあくなき挑戦」を続けてまいります。



# 価値創造プロセス

グループパーパスのもと、  
経営資本の強化・充実により、新たな価値を創出します



## SEIKO HOLDINGS GROUP PURPOSE

革新へのあくなき挑戦で、  
人々と社会に信頼と感動をもたらし、  
世界中が笑顔であふれる未来を創ります。

セイコーホールディングスグループは  
グループパーパスを原点に事業活動を通して  
グループのたゆみない成長とともに  
持続可能な社会発展に貢献します

セイコーホールディングスグループは  
社会的価値、技術的価値、感性的価値を通して  
世界中の人々の心を豊かにします

セイコーホールディングスグループは  
これからも「常に時代の一步先」に挑み続け  
新しい技術・製品・サービスを生み出します



### 1. 事業を支える資本

創業から140年、長期にわたって当社株式を保有いただく株主や金融機関との信頼関係を背景にした安定的な経営を行っています。

国内および海外4か国における**製造拠点と多くの仕入先や協力工場**を有し、また、国内の諸事業の拠点および十数か国にまたがる**販売子会社の拠点**、さらにはウオッチ事業を中心とした数多くの代理店網による**グローバルな販売・アフターサービスネットワーク**を構築し、事業の持続的な成長を実現しています。また、日本の代表的な高級商業地**銀座のシンボルとなる和光本館**をはじめとした多くの事業用不動産で様々な事業を展開しています。

その様々な事業（ウオッチ事業、電子デバイス事業、システムソリューション事業他）に従事する企画・設計・開発・デザイン・製造・マーケティング・販売・アフターサービス等の事業部

門およびそれらを支える総務・人事・法務・経理・IT・PR・IR・企画管理の管理部門、さらにグループ横断的な組織であるSDGsやDX、R&Dインキュベーション、コーポレートブランディング部門を含めた**グローバルかつ多様な人員数**は12,000人超（2021年9月末現在）となっており、**現代の名工や黄綬褒章受章者**を数多く含めた優れた人材の集まりです。

これらの長い歴史を伴った組織・ネットワーク・人材により生まれた特許権、商標権、意匠権等の**知的財産**と時代を牽引してきた**技術力や感性**、そして多くの経験・ノウハウ等は当社グループ事業を支え、躍進

させる重要な強みでもあります。

その中で培われた当社グループおよび当社グループ商品のイメージ、それらへの内外の人々の想い、期待がまさしく**SEIKOブランド**であり、当社グループ事業そのものとも言えるもので、これが当社グループと多くのユーザー、お取引先、従業員などを強く結びつけています。

また、持分法適用関連会社が営む事業などにおいても、その株主となられている**事業パートナーの方々**とともに同様の数多くの強みによって持続的な発展を遂げています。

### 2. 創造する価値

当社グループは「**革新へのあくなき挑戦で、人々と社会に信頼と感動をもたらし、世界中が笑顔であふれる未来を創ります。**」というパーパスをすべての活動の原点としています。このパーパスを体現し続けるために、企業理念「**社会に信頼される会社であること**」や、セイコーの革新と躍進を支えてきた「**常に時代の一步先を行く**」という創業者の経営姿勢、さらにはすべてのステークホルダーの皆さまと希望に満ちた新たな時代をワクワク感・ドキドキ感をもってともに創り、ともに楽しみ、ともに響きあいがら歩んでいきたいとの願いを込めたグループスローガン「**時代とハートを動かすSEIKO**」掲げて事業活動を行っています。そして、将来に向けた長期ビジョンとその実現に向けた計画を策定し、これらの経営方針等の下、当社グループはウオッチ事業、電子デバイス事業、システムソリューション事業、タイムクリエーション事業、和光事業などを展開しています。

当社グループの中核事業であるウオッチ事業は社内企画・開発、デザイン、設計、製造、マーケティング、販売、アフターサービスまでを一貫して行う世界で数少ない**マニュファクチャール**です。また世界中で商品販売するとともに、どこでも購入してもアフターサービスが受けられる**ワールドワイドギャランティ制度**を整えています。完成品ビジネスの商品は5,000万円相当の「FUGAKU」などを有する「クレドール」や、「グランドセイコー」・「セイコー プロスペックス」を中心とした**グローバルブランド**など多岐にわたっており、さらには**高度な設計と製造の技術**を要する新機構や複雑機構を搭載した**機械式ムーブメント**の開発や、ムーブメントの外販ビジネスも行っています。これらのセイコーらしい商品の販売を通して、完成品ビジネスでは**高精度な時刻表示**とともに、視認性、堅牢性、耐久性など、高い**機能的価値**に加え、「独創の技術」「匠の技」「日本の美意識」から生み出される高品質な製品に技術先進性やステータス性、品格などを加え、「持つ喜び」「つける喜び」「贈る喜び」を演出し、**感性的価値**や自己表現価値を提供しています。また、技術の伝承や機械式、**スプリングドライブ**、ソーラーなどの**自然エネルギーを利用した製品の提供**、高度な修理技術と最新設備により気に入っていただいた商品を少しでも長くご愛用いただく資源の有効活用にご貢献する**アフターサービス**、売上の一部での海洋保護活動支援、地域振興への貢献など**社会的価値**につながる製品や活動も展開してい

ます。さらに、世界中の代理店に向けたマーケティング方針の提供も事業とブランドの成長にとって重要な役割の一つです。小売事業では他社の商品も扱うことで、ユーザーから直接幅広い情報を獲得できるとともに、ユーザーに時計の素晴らしさ、利便性、バリューを直接お届けすることで、商品やサービスを購入する過程で得られる「喜び」や「満足感」などより高い**顧客経験価値（カスタマー エクスペリエンス）**もお届けしています。

セイコーのウオッチ製造技術を基礎として進化した**精密加工技術**を中心とする電子デバイス事業では、「**匠・小・省**」の技術理念に基づいたコア技術をベースに、水晶振動子、小型二次電池等のマイクロエレクトロニクス商品、高機能金属、精密加工金属部品、プリンタ関連製品などのデバイスおよび完成品を提供し、お客さまの**高密度実装**を実現して**小型化、低消費電力化、多機能化**に貢献しています。また国内外の生産設備投資計画を徹底し**お客さまへの安定供給**を行うとともに、再生可能エネルギーを導入するなど**環境に配慮した製造工程の構築**を実現しています。

システムソリューション事業では、さまざまな企業や官公庁などの顧客に向けてデータサービス（決済・オーダーエントリー端末等）、情報ネットワークシステム（レガシー通信用機器等）、無線通信機器、性能管理ソフトウェア等の提供、そして新たなニーズに対応するための事業の多角化を通して、お客さまの**DXや環境負荷低減**などの**課題解決とSociety5.0**の実現に貢献しています。

その他、タイムクリエーション事業ではセイコーを中心としたクロック、設備時計、タイミング機器により**正確な時刻情報**とともに、一般家庭などプライベート分野からオフィス、学校、工場さらにはスポーツ・公共施設などの**パブリック分野におけるファシリティ**まで様々な場所・空間・環境においてユニークで魅力ある商品を提供しています。和光事業では**銀座のシンボル**という他では得られない空間で、**最上級の接客**をもって国内外の**選り抜かれた商品**を提供しています。

また、これら事業活動を支える**SEIKOブランドの価値向上**や幅広い浸透に向け、当社のブランドを代表する商品ばかりでなく、時と深い

関わりのある**スポーツや音楽**を通じて幅広く人々と**感動を共有する**ブランディング活動に継続的に取り組んでいます。製造部門を中心に「**匠・小・省**」をさらに高め、効率的かつ**低コストの高精密生産加工技術**等の開発や**環境に配慮した製品、製造工程**の開発などお客さまの満足を一層高める**新技術の研究開発**を行い、セイコーの技術のさらなる進歩にも取り組んでいます。

人事部門を中心としてグループ全体にわたって幅広い範囲への研修・セミナーを行うことで**セイコーらしい人材**を育て、さらにグローバル市場で通じる**プロフェッショナル人材や次世代経営幹部**の育成を行っているほか、さまざまな機会を使って**組織の活性化と労働環境の整備**を行い、新規を含む人材の確保に努めています。また、全社を通じて**コーポレートガバナンスの強化**に向けて、内部統制システムや企業倫理・コンプライアンス体制の整備、リスクマネジメントの徹底を行うほか、株主をはじめ投資家、金融機関の方々向けなどセイコーらしい**コーポレートコミュニケーションの向上**にも取り組んでいます。

工場見学やミュージアムでの展示、子供向けを含むさまざまな場での組立実演等による**PR・社会貢献活動**を行い、**時計ファンの拡大**を図っています。また、**持続可能な地域社会の実現**に向けた活動を協働で推進するため岩手県と包括連携協定を結んだほか、岩手県技術評価制度第一号「いわて機械式時計技能士」認定制度をスタートさせるなど地元の活性化・時計業界の発展にも貢献しているほか、地域・社会との共存を目指して東日本被災地支援コンサートや海外現地法人での地域の福祉活動も継続的にを行い、一部の生産拠点では**生物多様性保全**エリアを指定したり、岩手県平庭高原の保護活動や千葉県「法人の森協定」に基づく「セイコーインスツルの森」などで植栽を進めるなど**環境保全**にも努めています。

これらの多岐にわたるセイコーらしい事業活動を通して**SEIKOブランドの価値をさらに高め**、それを幅広く広めつつ、**多くのステークホルダーとともに成長**していくことが当社グループの事業活動そのものです。

### 3. ステークホルダーが得る価値

当社グループは何よりも**世界中のセイコーファン**の皆さまと、当社グループのセイコーらしい幅広い製品と品質・サービス、あるいはその他の事業活動を通して、**満足感や安心感**だけではなくさまざまな**感動を分かち合**えることを目指しています。お客さま・ユーザーの皆さまには、当社グループの製品・サービスによりその**優れた機能・品質・技術**（精度、強度、質感、耐久性、防水性、長期アフターサービスなど）とともに、他にはない**セイコーならではの価値**（ヒストリー、デザイン、技術の最新性、品格、ライフスタイル、信頼、高級感など）を味わっていただけるよう、また、BtoBのお客さまには当社製品の**安心・安全**とともに、低消費電力化を支える製品の提供で**低環**

**境負荷社会への貢献**を実現するなど、社会課題解決に向けて取り組み、**お客さまの創造価値の一層の向上**のお役に立つよう事業活動を行っています。

一方、サプライヤー・協力工場や代理店・小売店などお取引先には、セイコーらしい製品（高品質、高性能、高級感、最新性、グローバル性など）を取り扱うことで当社グループと同じ**誇りや満足感**を得ていただくとともに、その**品質や技術レベル等の向上**や**安定的な成長**を期待していただけるよう活動しています。また、従業員にもグループパーパスを羅針盤として事業や製品等に携わることで**喜びや満足感**を

感じてもらい、その業務に誇りを感じて、**将来的な展望を持ち自ら成長**し続けられる環境を整えています。さらには株主や投資家、金融機関、ビジネスパートナーの方々にもセイコーとともに歩んでいただくことへの満足感、**期待感**、誇りを持っていただけるよう日々努めています。そして、世界中の様々な拠点のある地域や社会にもセイコーのグループパーパスに共感いただき、誇りと喜びを感じながら、ともに世界中が笑顔であふれる未来を目指していただけるよう幅広く活動を進めています。

### 4. 強化・増加される資本

当社グループの経営方針やコンセプトあるいは商品、その他のセイコーらしさを気に入っていただけるセイコーファンの皆さまやそのセイコーファンを増やすブランディング活動により育まれたセイコーの**ブランドイメージ**、また、高度な生産技術開発とともに設備投資される一層生産性の高い**製造設備**と新たな特許獲得などに象徴される**新技術**や、設計・開発力、技術力、デザイン力、マーケティング力、販売力などを兼ね備えた当社グループとサプライヤー・協力工場、代理店・小売店などによる強化された**生産・販売・アフターサービスのネッ**

**トワーク**と深化した**その関係性**、さらには能力向上とともにモチベーション、ロイヤリティがアップされた**従業員や従業員と会社**とのより強くなった**信頼関係や絆**、様々な業界や地域等との**もう一段発展した関係**などが事業活動を通じて作り上げられていきます。このような**技術力の向上、深化した信頼関係**によって当社グループが取組む環境、人権などの**社会課題解決への取組み**は加速されます。

そして、これらすべてのことから生まれる**SEIKOブランド**のさらなる価値向上が当社グループの長期にわたる**サステナブルな安定性と成長拡大**を生み出していくことになり、**安定的な収益性とブランド価値向上による信頼性のアップ**が財務資本をさらに継続的なものとしていきます。

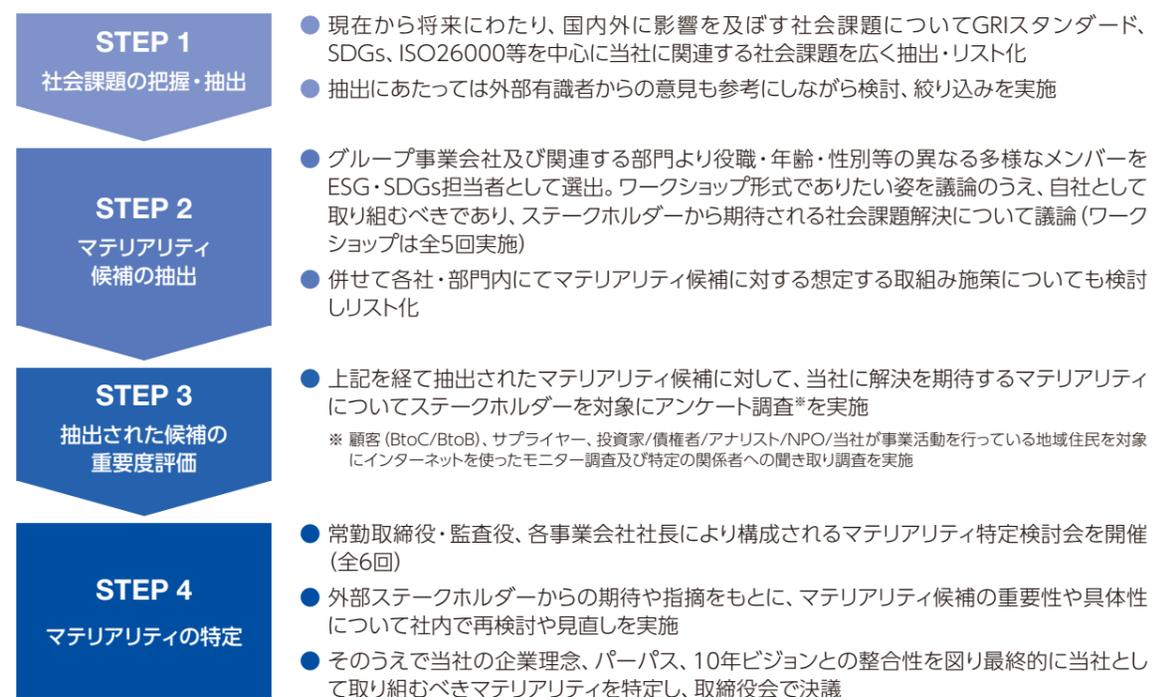
# 価値創造に向けた社会課題解決への取り組み

## セイコーホールディングスグループの目指す姿とサステナビリティへの取り組み

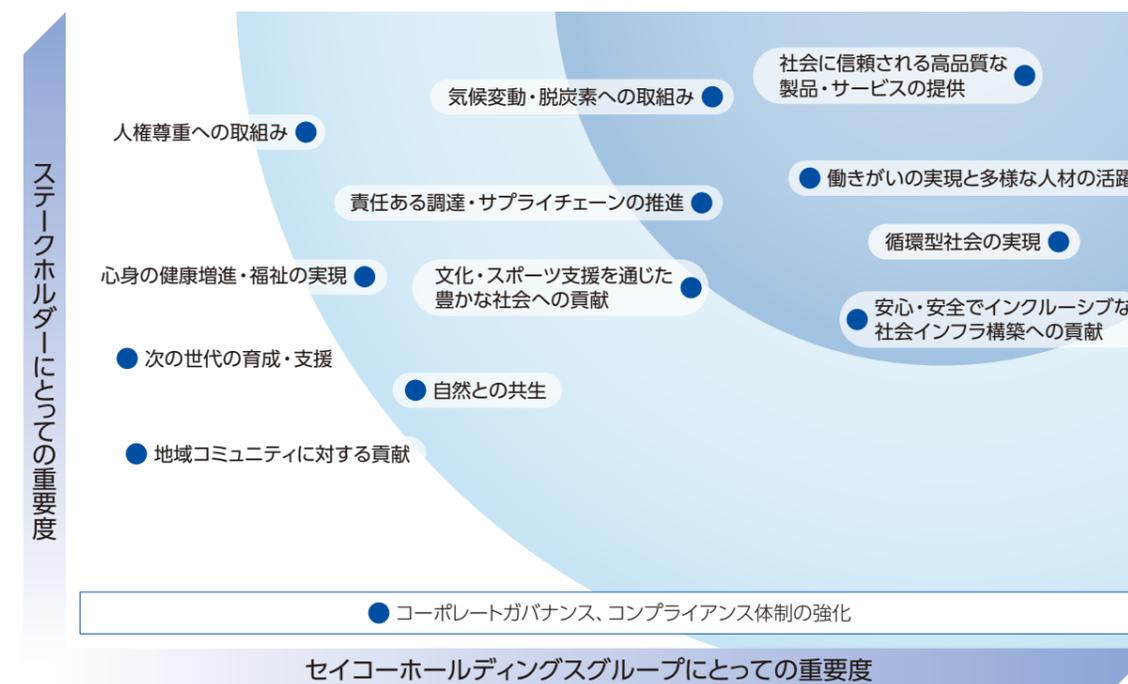
### 世界中が笑顔あふれる未来のために

セイコーホールディングスグループは、社会課題解決の目指す方向性として、Well-being(よりよい人生を)、Inclusion(すべての人に)、Trust(確かな信頼で)、Harmony(地球との調和)の4つをテーマとして、世界中が笑顔であふれる未来を創るために、モノづくりとデジタル技術を駆使し、持続可能な社会の発展に貢献します。

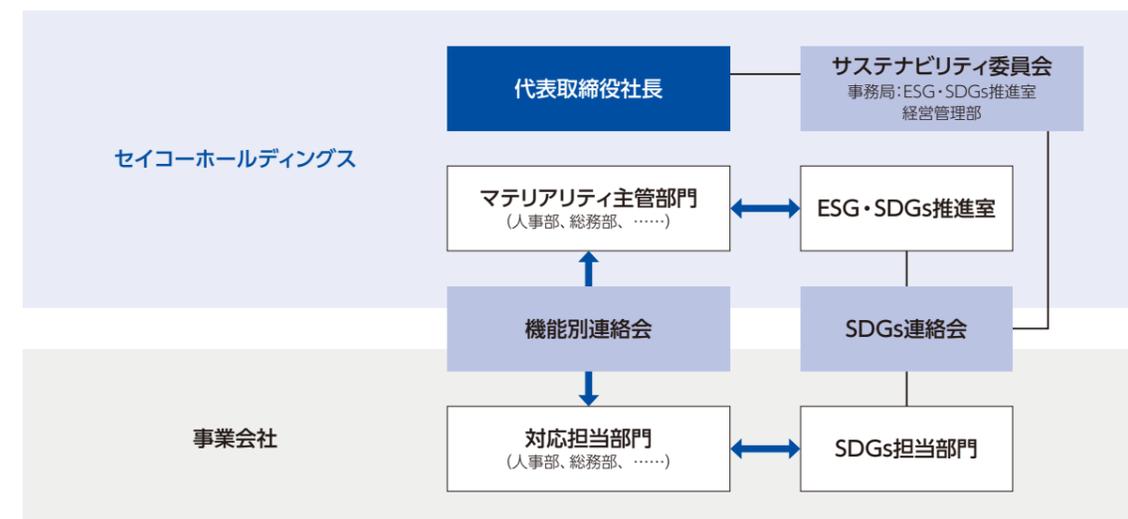
## マテリアリティ特定プロセスについて



## セイコーホールディングスグループのマテリアリティマトリクス



## 推進体制



セイコーホールディングスグループは、グループパーパスを原点に、“WITH”を実現する事業活動に取り組み、グループのたゆみない成長とともに持続可能な社会発展に貢献します。

目指す解決の方向性	マテリアリティ	貢献するSDGs
<p><b>Well-being</b> よりよい人生を</p> <p>人に優しく、寄り添う会社として従業員をはじめとするあらゆるステークホルダーが多様な価値観を認め合い、誇りと生きがいを感じながら働き、生活ができる社会を目指してまいります。また社会に根ざす人権、福祉等の課題にも積極的に取り組み、より多くの人々が自分らしく、心身の幸福を感じて暮らしていける世の中の実現に貢献していきます。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 働きがいの実現と多様な人材の活躍</li> <li>● 人権尊重への取り組み</li> <li>● 心身の健康増進・福祉の実現</li> <li>● 次の世代の育成・支援</li> </ul>	
<p><b>Inclusion</b> すべての人に</p> <p>いつの世も変わらない人間の幸福への希求に対して企業は大きな役割を担います。私たちは、利便性のような機能価値に加え、伝統的な文化・価値観の尊重に基づいた製品・サービスによる感性価値の提供、また、音楽・スポーツ等の活動支援を通じてワクワク・ドキドキのような心の豊かさを提供し、人類の未知なる挑戦を応援し、笑顔の未来を築きます。私たちは、新しい時代における人々の多様な生活様式に必要な基本的な生活インフラをモノづくりとデジタルの力で支え、安心安全な社会を実現することを目指します。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 安心・安全でインクルーシブな社会インフラ構築への貢献</li> <li>● 文化・スポーツ支援を通じた豊かな社会への貢献</li> <li>● 地域コミュニティに対する貢献</li> </ul>	
<p><b>Trust</b> 確かな信頼で</p> <p>創業当時からこだわり続けてきた品質・良品へのこだわりを追求することがステークホルダーへの期待に応えることにつながると考えています。「社会に信頼される会社であること」を基本理念におき、法令の遵守、経営の透明性、公正性の確保、社会倫理の尊重を重要な経営課題と位置づけています。この理念の実現に向けて、企業不祥事・不正や反競争的行為、ステークホルダーとの情報の非対称性、顧客プライバシーの侵害などの課題に対応します。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 社会に信頼される高品質な製品・サービスの提供</li> <li>● 責任ある調達・サプライチェーンの推進</li> <li>● コーポレートガバナンス、コンプライアンス体制の強化</li> </ul>	
<p><b>Harmony</b> 地球との調和</p> <p>近年、気候危機による自然災害の増加などの社会課題が一層深刻になっています。私たちは、グローバルブランドとしての責任として、大量消費・大量廃棄に代表される従来型の消費・生産活動の転換に注力します。また、環境技術への対応を通じ、温室効果ガスの排出などの課題に対処し、地域社会とともに地球環境と共生する持続可能な社会の構築に貢献します。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 気候変動・脱炭素への取り組み</li> <li>● 循環型社会の実現</li> <li>● 自然との共生</li> </ul>	

国際イニシアティブに賛同

「The Valuable 500」に加盟



「国連グローバル・コンパクト」に署名



気候関連財務情報開示タスクフォース (TCFD) の提言への賛同を表明



社会課題解決に向けた取り組み例

### 視覚障がい者の方のQoL向上に向けて

当社グループは、視覚障がい者の方のQoL向上を支援するため、世界初となる「薄型ソーラービーコン内蔵点字ブロック」を(株)ACCESS、(株)サカイシルクスクリーン、PLAYWORKS(株)と共同で開発し、鉄道、公共施設などで実証実験を開始しました。視覚障がい者を安全に誘導するよう床面の薄型点字ブロックにソーラー発電型ビーコンを搭載することで、スマートフォンに接続したイヤホンによって道案内などの情報を音声で確認することが可能です。今後も、このような先進的な技術を駆使し、さまざまな社会課題の解決に取り組んでいきます。

